

富 山

富山の文化高揚に寄与 桂書房代表

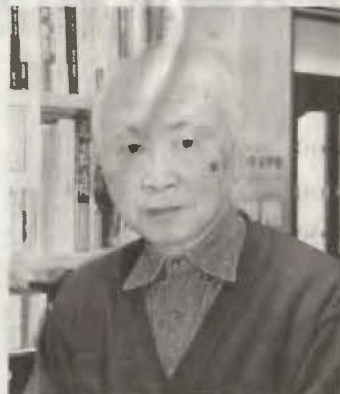
勝山敏一さんに「翁久允賞」

郷土の書籍 多数出版

富山出身のジャーナリストで作家、翁久允(1888～1973年)の遺志を引き継ぎ、富山の文化振興に尽力した人を顕彰する「翁久允賞」の今年度の受賞者に、桂書房(富山市北代)代表の勝山敏一さん(77)が選ばれた。

久允は、現在の立山町に生まれ、渡米後の1936年、郷土誌「高志人」を創刊。郷土史研究に心血を注ぎ、富山を代表する言論人として広く活躍する一方、高志奨学財団を創設し、学術、芸術などの分野で貢献した人材を顕彰した。現在は公益財団法人「翁久允財団」(須田滝代表理事)が、

受賞対象を富山の歴史や文芸の研究者に広げて顕彰制度を継続している。



勝山敏一さん
＝富山市北代の桂書房で

勝山さんは76年、地元出版社で編集長を務め、83年に桂書房を設立。これまで映画化された「納棺夫日記」をはじめ郷土文化に関する書籍を数多く出版した。自らも米騒動などを研究し「女一揆の誕生」(2010年)などの著書がある。県の文化高揚に寄与した点などが評価され、今回の受賞となった。

1994年に、児童文学者、故・神田董平さんの「筆魂 翁久允の生涯」も出版した勝山さんは「高志人は富山の文化が分かる大きな雑誌で、主宰者の久允は偉大な先人。近年、再び久允が見直されていることもあり、仕事で出版を続けてきた自分が久允の名を冠した賞をもらってもいいのかという気持ち」と話している。

今後は来年、発生から100年を迎える魚津の米騒動についてさらに研究を進める予定。贈呈式は18日、同市桜橋通りの富山電気ビルで開かれる。

【青山郁子】